

# 競 技 注 意 事 項

- 本大会に適用する規則は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則による。
- 今大会中の練習は、下記の指定された会場で、日程に従い実施すること。(芝生内は投てき練習禁止)

		10月29日(土)	10月30日(日)	備 考
本 競 技 場	トラック	1・2レーン 中長距離・競歩 3～7レーン 短距離・リレー 8・9レーン ハードル 《準備完了後～8:50》 100H・110H(5台) 《競技終了後～17:45》 400H(5台)	1・2レーン 中長距離 3～7レーン 短距離・リレー 8・9レーン ハードル 《準備完了後～9:20》 400H(5台)	練習会場内において、牽引ロープ、ラダー、ミニハードル等の器具を用いた練習は禁止する。
	フィールド	《跳躍 準備完了～8:50》 《投擲 準備完了～8:30》 男女棒高跳・男子走高跳 男女走幅跳 ※男女円盤投・男女ハンマー投は ターン練習のみ 《競技終了後～17:45》 女子走高跳・男女三段跳 ※男女砲丸投はドリル練習のみ ※男女やり投は助走練習のみ	《準備完了後～9:20》 女子走高跳・男女三段跳 ※男女砲丸投はドリル練習のみ ※男女やり投は助走練習のみ	ターン練習については、 <u>道具・器具を使用</u> しての練習は禁止  後片づけは、使用した者で責任もって行うこと
室内練習場	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習可能時間は、29日は7:30～17:45まで30日は7:30～15:30までとし、走練習のみとする。また、砂場は使用禁止とする。</li> <li>走る方向は東側(1500mスタート側)から西側(200mスタート側)方向へ一方通行とする。</li> <li>練習用具(ブロック、チューブ、ハードル等)の持ち込みは禁止する。</li> <li>室内練習場内での、シート・荷物などを置いての場所取りは禁止する。</li> </ul>			
補助競技場	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習可能な時間は、29日は7:30～17:00まで30日は7:30～15:30までとし、ウォーミングアップ会場として使用できる。スタブロ、ハードルについては準備されているものを使用すること(倉庫から勝手に出さないこと)走高跳マットは今大会は設置していない。</li> <li>芝生内はやり投練習専用とし、その他の練習は禁止とする。</li> <li>幅三段ピットは、砂場は使用できるが踏切板は設置しない。</li> <li>練習用具(ブロック、チューブ、ハードル等)の持ち込みは禁止する。(バトン可)</li> <li>男女砲丸投は、両日練習可能。ただし、各自で準備し片付けを行うこと(足止め、シート)</li> </ul>			
ちよるる広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>投てき専用練習場とする。(他の種目の練習は禁止)</li> <li>10/29(土)の練習可能時間は、以下の時間で各種目別に行う。<u>※30日(日)は使用できない。</u> 準備完了後～11:10・・・男女円盤投 11:10～14:55・・・男女ハンマー投</li> </ul>			

(注) 競技場外のジョギングコースは、スパイクの使用、ハードル等の設置は禁止する。

- 招集について(トラック・フィールドとも)
  - 競技者招集所は、雨天練習場内(1500mスタート側)に設ける。
  - 競技者は招集開始時刻に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際係員にアスリートビブス・氏名・校名とスパイクピンの点検を受け、競技者係の誘導に従うこと。なお、招集後は、待機場所を離れないこと。

招集の時刻は、トラック競技 30分前開始 20分前完了  
組ごとに招集時間が異なるためタイムテーブルに記載の時刻を厳守すること

フィールド競技 50分前開始 40分前完了  
※男女棒高跳のみ 70分前開始 60分前完了

- 招集完了時刻に遅れた選手は、その種目の出場を認めない。
  - 棄権する場合には、招集開始時刻までに競技者係に申し出ること。
  - 2種目を同時に兼ねる競技者は、招集開始時刻までに競技者係に2種目同時届を提出し、競技の進行に支障のないようにすること。
  - 入退場時の移動は、審判員の指示に従い規律ある行動をとること。トラック競技において、スタート地点に戻る場合は、競技場の外または、ダッグアウトを通って戻ること。
  - リレーのオーダー用紙は、第1組目の招集完了時刻1時間前までに招集所へ提出すること。オーダー用紙は、招集所に準備している。オーダー用紙の提出がない場合は棄権とみなす。
- アスリートビブスは各種目とも、胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍種目は背(胸)部に1枚でもよい。800m・4×400mRのアンカーは、右腰に別ビブスを使用する。1500m・3000m・5000m・3000mSC・5000mWは胸・背・腰に別ビブスを使用する。別ビブスは主催者が用意する。選手は招集時に自分のアスリートビブスを持参し、競技者係から別ビブスを受け取る。なお、その別ビブスはフィニッシュ後、直ちに返却すること。

5. 不正スタートについてはTR16.7を適用する。ただし、TR16.5.1～3および腰・大腿部・膝等が一瞬動いた動作は注意にとどめる。
6. 走路順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載順序による。ただし、決勝の組合せ、レーン順の決定は主催者で行う。
7. 選手の変更は認めない。プログラムの記載に誤りのある場合は、当日の競技開始1時間前までに本部総務員に届け出ること。
8. 長距離種目においては、競技運営上、次の記録を超えた場合は計時しない。  
 男5000m：19'00" 男3000mSC：13'00" 女3000m：14'00"  
 男女5000mW：40'00" (ただし、男女5000mWについては、この時間をもって競技終了とする。また、男女混合レースで行うため、主任単独の判定による失格もあり得る。)
9. ビデオ・携帯電話・音楽プレーヤーもしくは類似の機器の競技場内への持込は禁止する。
10. フィールド競技においては、次の記録ラインに達しない場合は計測しない。(天候などにより変更することがある。)

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	5m80	11m40	8m50	22m00		35m00
女子	4m50	9m00	6m00	20m00		22m00

11. 跳躍競技のバーの上げ方は、次のとおりとする。(天候などにより変更することがある)

種目	練習	開始の高さ	バーの上げ方	
走高跳(男)	1m50	1m55	1m75まで5cmずつ	1m75以後3cmずつ
走高跳(女)	1m25	1m30	1m50まで5cmずつ	1m50以後3cmずつ

※棒高跳については当日のコンディションにより現地にて決定する。

1位決定におけるバーの上げ下げは次のとおりとする。【走高跳 2cm 棒高跳 5cm】

12. 競技用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳のポールと投てき用具については、個人のものを使用を認める。投てき用具の検査は、競技開始90分前から60分前まで100mスタート付近の倉庫内で行う。
13. スパイクシューズのピンは、全天候舗装用で11本以内とし、長さは9mm以下とする。ただし、走高跳とやり投は、12mm以下とする。

シューズ底の厚さは以下の範囲内とする。競技者係で検査を受けること。

種目	シューズ底最大の厚さ
800m未満のトラック種目(ハードル含む)	20mm
800m以上のトラック種目	25mm
競歩	40mm

※日本陸連の通達により2023年3月までの適用除外措置として、フィールド競技用シューズの靴底厚確認のための計測は不要とする。

14. 危害防止について
  - (1) セパレートレーンの競走競技においては、フィニッシュライン通過後は、自己レーン(曲線)に沿って進むこと。
  - (2) 投てき競技においては、審判員の指示以外に勝手に練習しないこと。
15. 各種目とも、上位3位までに入賞した選手は表彰を行うので、決勝アナウンス終了後ただちに(5分以内、本人が他種目に出場の場合は代理人) エントランスホールの表彰控席に集合すること。
16. 声を出しての応援は禁止する。競技進行の妨げとなるような応援はしないこと。また、スタンド最前列に立っての応援は観覧者の迷惑となるので禁止する。
17. 観客席でのシート等による場所取り・簡易テントの設置は禁止する。また、コンコースでのシートのみの場所取りは認めるが、通行の妨げにならないように注意すること。
18. 医務員は、競技場のメインスタンド下の医務室で待機している。大会出場中の急病・事故については応急処置を行うが、その後の責任は負わない。
19. 大会運営に支障、問題が生じた場合は総務委員で協議して解決にあたる。抗議は、結果発表後30分以内に該当校の監督が各支部専門委員に申し出ること。
20. 補助員を原則として各校1名以上出すこと。補助員になっている生徒は、第1日目は8:20、2日目は8:45にエントランスホールに集合すること。(放送をかける)
21. 貴重品の管理は、各自で行うこと。紛失の責任は負わない。
22. ゴミは各校・各自で持ち帰ること。競技終了後の清掃は、次のとおりとする。  
 1日目 岩柳・徳山・長北地区      2日目 山防・宇部・下関地区